

# ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録3：8

VOL.01-03 NO.003 2009年6月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール：[nanbu-kyokai@nifty.com](mailto:nanbu-kyokai@nifty.com)

URL：<http://homepage2.nifty.com/nanbukyokai/>

## 父の日によせて

橋本幸夫

「あなたの父…を敬え」

(出エジプト20：12)

皆さん、6月21日は父の日です。1910年、米国の少女がワシントン市の聖職者同盟に父親に感謝する日をつくってほしいと願い出たのが始まり。彼女によって、6月第三日曜日に記念礼拝が行われるようになりました。この少女の父親は亡妻に代わり、男やもめで6人の子どもを育てあげたといひます。感謝はされてしかり。

ワシントンのジョージタウン大学のフットボールチームに大変熱心に練習しても、レギュラー選手に入れられない青年がいました。時々その青年は競技場のそばを父親と腕を組んで歩いていることがありました。それはフットボール選手としては、少しめめしいようにも思われました。

ある日コーチに「父の死ぬ前の最後の願いですからどうか私をこのレギュラー選手に入れて下さい」と一生懸命に頼みました。コーチは一応、青年のこのたつての願いを入れましたが、それでも、念を押さずにはいられませんでした。

「入れてもいいよ。だが、最初の2、3試合で君を除外しなければならなくなるだろう。なにしろ、大事な試合だからね」と。

ところが青年は除外されなかったのです。彼は、まるでスターのように戦い、その試合は彼の見事なプレーによって優勝したようなものでした。

あとでコーチは「いったいどうしたっていうのだ。君はこれまで一度だってあんなプレーを見せたことがなかったじゃないか」と尋ねますと、青年はこう言って答えたのです。

「先生は気が付かなかったでしょうが、父は盲人だったのです。でも今日は、父が私のプレーを見る最初の機会でした。それで私は父のためにベストを尽くして試合に臨みました」と。

フットボール選手の父親のように、皆さんの父親も皆さんの心の中にいつまでも生き続け、皆さんの勇ましい、正直な行動の見えない観戦者となり、どうしたらよいか分からないとき、途方にくれるときの相談相手、励まし手になりますように祈りたいものです。

守られてのありがたさ、生かされてのうれしさ。感謝の真(まこと)をささげて下さい。お父さんに…。